

商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

本取組みは両工業会共同で2002年11月以降実施してきたものである。活動概要は以下のとおり。

1. リサイクル設計の推進：車体メーカー各社にて製品展開拡大中。環境基準適合ラベル貼付については目標達成済み。
2. 環境負荷物質の使用削減：六価クロムの本年末切替えを残して目標達成済み。
3. リサイクル・適正処理の推進：協力事業者制度参加事業者を順次追加。
4. 情報提供、啓発活動の推進：関連事業者との情報交換継続。架装物チラシの配布継続。

自主取組みの内容	進捗状況
<p>1. リサイクル設計の推進</p> <p>(1)アルミ製冷蔵・冷凍バンの易解体性向上および適正処理の推進</p> <p>〔目標：易解体性バンの試作、製品展開〕</p> <p>(2)適正処理困難材(木材、断熱材)の代替材検討</p> <p>〔目標：製品展開〕</p> <p>(3)解体マニュアル作成</p> <p>〔目標：主要3機種をカバー〕</p>	<p>各社製品に展開中。解体性向上を図った冷蔵・冷凍バンは車工会会員2006年度生産の71%(17,251台)を占める。</p> <div data-bbox="694 741 1396 1086"> <p>従来品 → 木材レス化</p> <p>木材レスへの切替部位例</p> </div> <div data-bbox="694 1099 1396 1489"> <p>解体しやすい構造に変更 溶接からボルト結合に変更し解体性の向上、分別の容易化を図る。</p> <p>解体容易化への切替部位例</p> </div> <p>車工会会員ホームページ掲載例</p> <p>木材：木材不使用および木材使用量削減の冷蔵・冷凍バンの生産を拡大中。(参考 20) 断熱材：処理が容易なスチレン系断熱材に殆ど切替え済み。</p> <p>解体事業者等から要望のあった主要3機種(レントゲン車、冷蔵・冷凍バン、タンクローリ)の解体マニュアルについて対応完了。車工会会員主要各社ホームページ、取扱い説明書等で公開中。</p> <div data-bbox="1145 1821 1508 2078"> <p>冷蔵ウイング車解体マニュアル</p> <p>車工会会員ホームページ掲載例</p> </div>

(4)環境基準適合ラベルの設定

〔目標：車工会会員生産車の80%に貼付〕

< 環境基準適合ラベルの要件 >

- 3R 判断基準ガイドラインの作成
- 解体マニュアルの作成・公開
- 製造業者名の表示
- 樹脂部品材料名の表示

2. 環境負荷物質の使用削減

(1)鉛

〔目標：使用量 2002年度 60g/台
2006年度 30g/台に半減〕

(2)水銀

〔目標：2005年1月以降使用禁止
(照明装置等を除く)〕

(3)六価クロム

〔目標：2008年1月以降使用禁止〕

(4)カドミウム

〔目標：2007年1月以降使用禁止〕

2004年3月、環境基準適合ラベルの要件を設定し、2005年度に当初目標80%を達成済み。

バン型車の表示例



環境基準適合ラベル



製造業者名表示



樹脂材料名表示

電着塗装塗料等の早期切替えにより2005年度に目標達成済み。



荷台塗装の鉛フリー電着塗料への切替え



シャシ上塗り塗装の鉛フリー塗料への切替え

2005年1月までに切替え完了、目標達成済み。

2007年末には切替え見込み。

切替予定部位の例



メッキ部品



アルミ外板・ピラー

2007年1月までに切替え完了。



マーカーランプ

* 環境負荷物質対応状況は車工会会員主要各社ホームページで公開。

3. リサイクル・適正処理の推進

(1) 協力事業者制度の構築と拡充

〔目標：制度への登録拡充と
各ブロックへの適正配置〕

協力事業者について充実と地域的な偏在をなくすべく、参加事業者を順次追加。
2006年度は解体事業者等から要望のあったタンクローリ残液分析事業者、タンク洗浄および残液が処理可能な40事業所(23社)を追加。
参加事業者リスト改定版作成。(1万部、解体事業者等へ配布予定)
(参考 21)

参加事業所数(会社数)の現状

	発足時 2004年3月	2006年5月	2007年5月
参加事業所数(会社数)	68(63)	123(103)	167(122)
木材	32(31)	56(50)	67(56)
断熱材	34(34)	75(66)	79(61)
F R P	40(35)	80(69)	97(73)
丸ごと処理()	-	43(29)	56(35)
タンクローリ残液分析、 処理・洗浄	-	-	40(23)

(注)複数品目で参加の事業者があるため、品目毎の合計値と参加事業者数は異なる。
()丸ごと処理とは素材ごとに分離せず、架装物アッセンブリー状態でシュレッダ等で処理。

車工会ホームページに掲載



(2) F R P再資源化の推進

〔目標：F R P再資源化事業者の協力
事業者制度への登録〕

F R P製冷蔵・冷凍パンについて(社)日本舟艇工業会「F R P船リサイクルシステム」登録事業者のうち、北陸・近畿地域の1社を協力事業者制度へ追加、この結果、F R P処理73事業者のうち、セメント材料等への再資源化が可能な事業者は合計4社となった。

4. 情報提供、啓発活動の推進

(1) 架装物チラシの作成、配布

2007年度：2万部を増刷、東京モーターショー会場にて配布予定。
(参考 22)

(2) 解体事業者への情報提供

レントゲン機器メーカーによる解体事業者向け説明会を開催し、相談窓口を紹介した。